2003 年 10 月 29 日

現在の問題点と制限事項

クレオジャパン株式会社
〒170-0013
東京都豊島区東池袋 1-17-8
NBF 池袋シティビル

電話 : 0800-919-0900
FAX : 03-5954-8891

http://www.creo.com/
http://www.creo.com/jp/products/software_solutions/ss_workflow/brisque/default.htm

Brisque バージョン 4.1 アップデート

現在の問題点と制限事項

文書更新日：
2003 年 10 月 29 日

653-00685A-JA

2003 年 10 月 29 日

Copyright ©2005 by Creo Inc. All Rights Reserved.データは予告なしに変更されることがあります。

Creo および Creo ロゴは、Creo, Inc. の商標または登録商標です。このドキュメントに記載された Creo 製品は、Creo Inc の商標またはサービス マークであり、指定された当該司法管轄で登録されている可能性があります。

Apple、AppleTalk、AppleShare、EtherTalk、LocalTalk、Macintosh、および LaserWriter は、Apple Computer, Inc. の商標で、米国およびその他の国で登録されています。

Adobe および PostScript は Adobe Systems Inc. の商標で、米国特許商標局で登録されており、他の法域で登録されている場合もあります。Acrobat、Acrobat ロゴ、

PDF、Adobe Illustrator、および Adobe Font Downloader は Adobe Systems Inc. の商標で、特定の法域で登録されている場合があります。

その他の企業、ブランド、製品、サービスの名称は文書作成のみを目的に引用されたもので、当該各社の商標または登録商標になっている可能性があります。

2003 年 10 月 29 日

Brisque バージョン 4.1 アップデート 現在の問題点と制限事項

本書は、「現在の問題点と制限事項」および「解決済みの問題と制限事項」の 2 部構成になっています。「解決済みの問題と制限事項」のセクションは、問題が修正されたアップデート別に分類されています。

目次

現在の問題点と制限事項 4
- 全般 4
- Arrange 4
- Brisque Mac Client（MacFE） 4
- Export PS 4
- JoBit 4
- Merge 4
- Normalize 4
- Packaging 4
- PDF2Go 5
- Plate Expose 5
- RIP 5
- Screen2Go 6
- Spectrum 6
- TIFF/IT 6
- Translate 6
- Versioning 6

解決済みの問題点と制限事項 7
- 出力アップデート（Upd_Brisque41_Output - 4.1.76.5 以降） 7
- Veris (Proof/Integris) アップデート （Upd_Brisque41_Veris - 4.1.76.5 以降） 7
- Improof アップデート（Upd_Brisque41_Improof - 4.1.76.2 以降） 8
- RIP アップデート（Upd_Brisque41_RIP - 4.1.76.4 以降） 9
- アップデートに含まれないその他の情報 10

2003 年 10 月 29 日

現在の問題点と制限事項

全般

- Brisque の削除機能では、Brisque 面付けジョブは削除できません（CR21117）。

Arrange

- [Custom Size] メニューを選択すると、デフォルト サイズの 700 x 1000 mm が表示されますが、［Custom Size］を再度選択してメニューを閉じると、この値が 268.5 x 268500 に変更されます（CR21021）。

Brisque Mac Client（MacFE）

- Brisque で Plate Expose ジョブ チケットが含まれるテンプレートを Hold した後で、表示された Plate Expose ジョブ チケットを編集すると、Mac Client の［Hold］Queue に Plate Expose Job が 2 つ表示されます（CR20835）。

Export PS

- [Convert Vignettes to PS3] オプションを使用して RIP 処理されたグラデーションのオーバープリントを含む Brisque Job に対して ExportPS 処理を行い、出力された PostScript ファイルを RIP 処理すると、グラデーションのオーバープリントが正しく RIP 処理されません（CR20246）。

JoBit

- Nexus で生成された、スポット カラーを含む 1-bit TIFF ファイルは JoBit で認識されません（CR21352）。

Merge

- 分版された PDF ファイルに RIP 処理を行うと、各色版用の Brisque ページを含む Brisque Job が作成される場合があります。この Brisque Job を Merge することはできません。

Normalize

- カラー化された TIFF を含み、DeviceN オプションを使用して保存された Quark 6 PostScript ファイルを Normalize することはできません（CR21374）。

  対策：この種類のファイルを処理する場合にのみ、**CSDistillerStartup.ps** ファイルを **Brisque 4.0 Accessories CD** に含まれている 2001 年 1 月 10 日付けの同名ファイルと置き換えてください。

Packaging

- 表面と裏面の折丁が両方含まれている Brisque Packaging Job を Expose すると、裏面の折丁には、マークのみが出力され、画像は失われます（CR21378）。

  対策：表面と裏面の折丁を個別に出力してください。

PDF2Go

- CT 上に配置された白いボックスにブラック テキストが含まれている場合、出力されたジョブに対して PDF2Go を実行すると、テキストがオーバープリントされます（CR21077）。

Plate Expose

- Brisque ステーションに [hostname].1.0 ボリュームがない（たとえば、既存の dataVolumes が BrisqueST2.0 および BrisqueST3.0 であり、BrisqueST1.0 が定義されていない）場合、Quick Re-Expose を実行するとエラーが発生します（CR21400）。

  対策：既存の dataVolumes フォルダ内に [hostname].1.0 フォルダを新規作成します。その後、Quick Re-Expose 操作をこのパスにリンクします。

- 1-bit TIFF ファイルを出力すると、スラグ領域に色版名がすべて表示されます（CR20843）。

- テンプレート内で InkPRO 操作が行われている場合、［Plate Expose］パラメータの［Cyclic］オプションは機能しません（CR21354）。

- カラー バーがページにオーバーラップされている場合、カラー バーに線が表示されます（CR20932）。

RIP

- Nexus で作成された DCS 2.0 Multi ファイルは正しく RIP 処理されません（CR20192）。

- ArtPro で作成された DCS 2.0 ファイルは正しく RIP 処理されません（CR21396）。

- QuarkXPress 5 Passport で配置され、OPI オプションを使用して PostScript として保存された Illustrator 8 EPS ファイルは、RIP 処理を行うと失われます（CR21152）。

- Quark で配置され、［TIFF & EPS 画像を除く］オプションを使用して PostScript として保存された Illustrator および InDesign EPS ファイルは、RIP パラメータで［Rotate］オプションと［Scale］オプションの両方を使用すると、正しく RIP 処理されません（CR21370）。

- InDesign 2.0.2 で作成され、背景画像の最前面に配置されたシャドウを含むファイルを PDF で保存すると、一部のファイルのシャドウは RIP 処理後に濃くなる場合があります（CR20923）。

  対策：PDF 1.3 を使用せず、PostScript を使用してください。

- 一部の PostScript ファイルおよび PDF ファイルに対し RIP 処理を行うと、エラーが発生して「Internal error in device」メッセージが表示される場合があります（CR17111）。

- 内蔵のパターンで塗りつぶされたエレメントを含む Illstrator 10 ファイルは正しく RIP 処理されません（CR20854）。

- PostScript ファイルに埋め込まれたグレースケール TIFF は、［CT Quality］オプションまたは［CT to LW］オプションを使用して RIP 処理を行うと失われます（CR20281）。

- Barco PackEdge で作成されたシャドウを、NCC ワークフロー（日本のみ）を使用して RIP 処理し、ExportPS 操作を使用して PostScript にエクスポートすると、RIP 処理後にシャドウが失われます（CR21009）。

- Adobe Photoshop 6 で作成された EPS ファイルに、カスタム ColorSync プロファイルが埋め込まれ、DTP アプリケーションで OPI として配置された場合、RIP 処理後に画像のずれが発生する場合があります（CR21377）。

- Prinergy ベクター DCS ファイルは正しく RIP 処理されません（CR21390）。

  対策：分版 PS ワークフローを使用してください。

- 分版された Quark ファイルに埋め込まれたデュオトーン EPS 画像は、RIP 処理後に失われます（CR20224）。

- Adobe InDesign で作成されたグラデーションが正しく RIP 処理されず、CT レイヤーと LW レイヤーとの間でグラデーションが分離される場合があります（CR21135）。

- InDesign ファイルで PANTONE スポット カラー化された TIFF が別の CMYK 画像の上に配置されている場合、OPI オプションを使用して PostScript として保存すると、ファイルは正しく RIP 処理されません（CR21151）。

- 縮小した TIFF 画像を含むファイルに、Smooth Scale オプションを Bicubic で使用することは推奨されません (CR21380) 。

  対策：TIFF ファイルを使用せず、EPS ファイルを使用してください。

Screen2Go

- 1-bit TIFF ファイルを作成すると、スラグ領域に色版名がすべて表示されます（CR20843）。

- [Flexo Media] チェックボックスの名前は［CT Filter］にしてください（CR20633）。

- Dolev 800V3 と Screen2Go への出力を同時に行うと、Screen2Go の操作の一部でエラーが発生し、エラーメッセージ番号 7155 が表示される場合があります（CR21291）。

  対策：失敗したジョブを、［Failed］Queue から再送信してください。

Spectrum

- リモート サイトの Brisque にログインし、Queue Manager にアクセスしても、デバイスを変更することはできません。これは、ローカルの Brisque からリモート ステーションの［Hold］Queue にあるジョブにアクセスする場合も同様です（CR21315）。

TIFF/IT

- 分版された Job を Merge すると、ファイルの命名規則が正しく適用されず、ページ番号が正しく割り当てられません（CR17629）。

  対策：ファイル名を手動で変更してください。

Translate

- 1 番最初のレイアウトから開始されていない部分的なレイアウトを含む ICF ファイルを Preps から出力し、Translate 操作を行うと、正しいレイアウト番号が適用されません。この場合、最初のレイアウトの番号が常に 1 になります（CR20771）。

Versioning

- ベース ディメンションがバージョニングの寸法と一致しない場合でも、エラー メッセージは表示されません (CR20796) 。

解決済みの問題点と制限事項

出力アップデート（Upd_Brisque41_Output - 4.1.76.5 以降）

Expose

- Blueline を使用して出力する場合、ブラック テキストが常にノックアウトされます。**修正済み**

Preview

- Brisque Imposition Job でズーム機能を使用すると、Eyedropper ツールで値が誤って表示されます。**修正済み**
- Versioning の Imposition Job をプレビューし、色版をクリアすると、画面が点滅し、Imposition Job が再ロードされます。**修正済み**

Trendsetter（Plate Expose）

- 2 枚の TSP ボードがインストールされた Trendsetter V speed で Staccato を使用すると、非常に細い黒い線が表示されます。**修正済み**
- プレート サイズが小さい場合にのみ、画像のサイズが拡大され、ノイズが含まれるという問題が断続的に発生します。**修正済み**

Proof

- Lotem Quantum Spectrum で ICC プロファイルが適用されません。**修正済み**

Flexo

- Flexo Filter が修正され、ノイズが少なくなりましたが、0 ～ 100% をカバーするグラデーションが若干短くなります。**修正済み**

Veris (Proof/Integris) アップデート（Upd_Brisque41_Veris - 4.1.76.5 以降）

Proof

- Iris でメディアがなくなると、Queue 内のすべてのジョブがエラーで終了します。**修正済み**

  注意：修正を適用すると、最初のジョブのみがエラーで終了し、Proof 処理は中断されるようになります。

2003 年 10 月 29 日

- 1 つのテンプレートで Proof 処理より前に Arrange 処理を行う場合、Auto arrange モードは使用できません。**修正済み**

  注意：この解決方法を使用するには、［Alignment for Guillotine］オプションをオンにし、［Enable Element Rotate］オプションをオフにする必要があります。

Kodak Approval

- KodakXP で Brisque Packaging ジョブの処理を行うと、ゴーストが発生します。**修正済み**
- フォルダ名にスペースが含まれている場合、カラー変換処理でエラーが発生します。**修正済み**
- KodakXP と Trendsetter Spectrum を同時に設定することはできません。**修正済み**

Spectrum

- Trendsetter Spectrum で Brisque Packaging ジョブの処理を行うと、ゴーストが発生します。**修正済み**
- フォルダ名にスペースが含まれている場合、カラー変換処理でエラーが発生します。**修正済み**
- KodakXP と Trendsetter Spectrum を同時に設定することはできません。**修正済み**
- セミチントを含む Brisque Job で Color2Disk および ICC プロファイル変換を使用すると、パフォーマンスが低下します。**修正済み**

  重要：この解決方法を使用するには、ターミナルから別のスクリプトを実行する必要があります。スクリプトにより Color2Disk 操作が Brisque バージョン 4.0 環境に切り替わりますが、セミチントは正確に再現されません。

  Brisque バージョン 4.0 環境に切り替え、パフォーマンスを向上するには、ターミナルを起動して、「C2D_4.sh」と入力します。

  Brisque バージョン 4.1 環境に戻すには、ターミナルを起動して、「C2D_41.sh」と入力します。

  注意：Brisque バージョン 4.0 で実行した Color2Disk ジョブを Brisque バージョン 4.1 で元に戻したり、バージョン 4.1 で実行した Color2Disk ジョブをバージョン 4.0 で元に戻すことはできません。

Improof アップデート（Upd_Brisque41_Improof - 4.1.76.2 以降）

Improof

- 白の領域に小さな点が表示されます（断続的な問題）。**修正済み**
- Brisque と Gerber Impress 2000 システムとの間で通信エラーが発生します。**修正済み**
- Epson および HP5xxx Improof での折丁（両面）オプションはサポートされません。**修正済み**

RIP アップデート（Upd_Brisque41_RIP - 4.1.76.4 以降）

RIP

- SmartEdge オプションを使用して RIP 処理された Brisque ページを PressTouch で開くことはできません。**修正済み**
- CT を含むマークを ICF ワークフローで RIP 処理することはできません。**修正済み**
- LW レイヤーに 4,000 を超えるウィンドウが存在する場合、CT Quality オプションを使用すると、分版された Brisque Job が出力されます。**修正済み**
- PDF ファイルを RIP 処理するとマゼンタ版が失われます。**修正済み**
- CT グラデーションが LW の上にある場合、オーバーラップされた領域でグラデーションが表示されない場合があります。この問題は断続的に発生します（CR18513）。**修正済み**
- [APR]、[OPI]、[DCS] のいずれかが選択されている場合、FrameMaker で作成された、分版された PostScript ファイルの RIP 処理でエラーが発生します。これらのオプションをクリアすると、各色版が個別の Brisque ページとして出力されます（CR20582）。**修正済み**

Packaging（LRS ワークフロー）

- ArtPro で作成された、スポット カラーを含む特定のファイルを LRS ワークフローで RIP 処理すると、EPS が壊れます。**修正済み**
- **.eps** ファイルがページ単位で作成され、ジョブ単位では作成されません。**修正済み**。この修正を適用すると、ファイルをユーザー定義の場所に保存することもできるようになります。
- RIP 処理では、LRS ワークフローを使用して低解像度 PDF を作成することはできません。

Export PS

- Brisque Job を DCS 2.0 Single でエクスポートすると、ファイル内の CT がすべて失われます。**修正済み**
- ExportPS の［Screen Params］ダイアログで［Dot shape］および［Frequency］を変更すると、生成された PostScript ファイルを Harlequin RIP で RIP 処理することはできません（CR19817）。**修正済み**

TIFF/IT

- Barco システムでの TIFF/IT 出力でエラーが発生します。**修正済み**
- TIFF/IT 検証ソフトウェアでの TIFF/IT 出力でエラーが発生します。**修正済み**

JoBit

- JoBit Hot Folder は Nexus 1-bit TIFF ファイルを認識できません。**修正済み**
- スポット データベースをロードすると、1-bit TIFF ファイルのスポット カラーがブラックで表示されます。**修正済み**

2003 年 10 月 29 日

Packaging

- ArtPro でスポット カラーを使用して、分版 PS ファイルとして保存されたファイルを、LRS ワークフローを使用して RIP 処理すると、正しく出力されません（CR20933）。**修正済み**

アップデートに含まれないその他の情報

Screen2Go

InkPRO を正しくサポートするため、Screen2Go の命名規則が変更されました。

たとえば、バージョン 4.0 で **xxx-L1-C.tif** であったファイル名は、バージョン 4.1.76 では、InkPRO でサポートされるファイル名 **xxx-S1-W1-F0-C.tif** となります。

以前の命名規則に戻すことをご希望の場合は、Creo サポート センターにお問い合わせください。